

印西大師 第54番 平塚・延命寺

1 名称 (No.054)〔手引鏡：延命寺〕〔資料館：延命寺〕〔行程表：延命寺〕

2 場所 白井市平塚939 延命寺

平塚・本郷堂から道程約220m

GPS座標 35.8221736913212, 140.08380074110045

3 由緒 真言宗豊山派 普登山 蓮華院 延命寺

平塚地区は、龍正院で有名な滑川の高岡藩の領地だったことから、代々藩主（井上家）の庇護を受けていたお寺のようです。「延命寺は寛弘2年（1005）法印賢澄上人の開基と伝えられる。当初は地区内本郷下にあったが元和6年（1620）に平塚村の大火に会い、諸堂を失い、井上筑後守の庇護により現在地に移転、万治3年（1660）に再建された。本堂には、本尊の延命地藏尊のほか、大黒天（しろい七福神）、弘法大師、興教大師両尊像、涅槃像等が祀られております。」（延命寺HP）

4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が1体あり。

5 境内 印西大師堂の隣に東葛印旛大師堂（第65番・第84番）があり、大師像、石柱内蔵型の御大師様もいる。周囲には南無大師遍照金剛と彫られた石碑などが所狭しと建てられている。

6 写真 (2022.10、2023.03撮影)



大師堂



御大師様



大師堂



石柱内蔵型の御大師様



印西大師堂(左)と東葛印旛大師堂(右)



弘法大師一千五十年遠忌供養塔



本堂



山門



山門前の桜並木

7 情報

(1) 印西大師 第54番 延命寺 御詠歌 (泉倉寺本による)

曇(くも)りなき鏡の椽と眺(なが)むれば 残さず影を映(うつ)すものかな

四国八十八ヶ所 第54番 真言宗豊山派 近見山(ちかみざん) 宝鐘院 延命寺(えんめいじ) 写し

(2) 延命寺

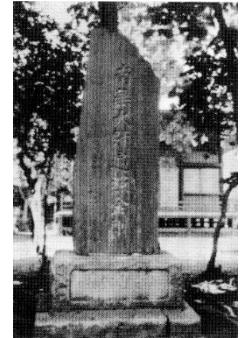
平塚村字北口にあり 真言宗にして興福院末なり 地藏尊を本尊とす 由緒不詳 檀徒614人 境内仏堂一字あり即一.観音堂 (印旛郡誌)

(3) 南無大師遍照金剛 (平塚大師 特第1番の碑)

(表面) 南無大師遍照金剛 平塚講中 第廿三世住職 稲葉俊彰

(裏面) 平塚区内弘法大師八十八ヶ所設立由来

夫レ弘法ノ靈験顕著ナルハ世ノ遍ク知ル所ナリ曩ニ寺田治兵エ氏私財ヲ投シテ明治二十九年五月四国八十八ヶ所ノ靈場ヲ巡拜シ明治三十三年五月当区内ニ八十八ヶ所ノ靈場ヲ模シ御靈光ヲ得矣茲ニ諸氏相謀リ紀念ノ為メ設立スル所似ナリ 大正六年四月廿一日建 以下、世話人、発起人氏名 (略)



(4) 弘法大師の言葉を刻んだ石碑 (本堂前)

虚空尽き 衆生尽き 涅槃尽きなば 我が願いも尽きなん 弘法大師 空海上人 聖語

(5) 弘法大師空海の作とされている歌



くうかい か
空海可
こころの
胡々ろ乃
ち
う知に
さ はな は
佐く華盤
たり
み多よ梨
ほかに
外尔
し ひ は
志る飛と八なし

空海が
心の
うちに
咲く花は
弥陀より
外に
知る人はなし

(6) 観音堂 (県指定有形文化財)

江戸時代の「方3間の規模の三間堂です。屋根は入母屋造で銅板葺、基礎には礎石が用いられている。円柱に頭貫・台輪を組み、組み物は禅宗様三手先で、中備に墓股を置き、軒は二軒繁垂木である。内部は、格天井で中央うしろよりに来迎柱を設けている。建築時期は (中略) 寛文7年(1667)に石川県金沢の大工が携わって造立が始まり、同8年(1668)に完成したと考えられる。こ

この堂は、総体に建ちが高く木材が細く、いかにも近世建築らしい造りであるが、県内の他の和様と禅宗様とからなる三間堂とは様式・意匠が異なり、禅宗様の要素が濃いのも、棟札の写しにあるように金沢の大工が建てたことによるものからと思われる。屋根はもともと茅葺であったが、鉄板葺を経て、昭和58年(1983)の修理により現在の姿である銅板葺になった。」(千葉県教育委員会HP)



(7) 終戦五十回忌平和祈念 鎮魂 碑

1994年(平成6年)3月7日、延命寺の住職さんが60名の法要団を編成し、沖縄県糸満市において終戦五十回忌平和祈念 沖縄戦五十回忌追悼 法要を行ったことを記念し、建立したものです。

8 関連Web

○延命寺のホームページ <http://enmeijishiroyi.web.fc2.com/>

東葛印旛大師 第65番・第84番 平塚・延命寺

- 1 名称 平塚・延命寺
- 2 場所 白井市平塚939 延命寺
平塚・本郷堂から道程約220m
GPS座標 35.8221736913212, 140.08380074110045
- 3 由緒 真言宗豊山派 普登山 蓮華院 延命寺
東葛印旛大師(柏大師)第65番、第84番札所
- 4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が2体あり。
その横には弘法大師像が1体あり。
- 5 境内
- 6 写真 (2022.10、2023.11撮影)



大師堂



御大師様(左)



御大師様(右)



弘法大師像と大師堂



御大師様(2体)



印西大師(左)と東葛印旛大師(右)



大師堂



弘法大師像



紅葉の弘法大師像

7 情報

(1) 准四国八十八ヶ所東葛印旛大師巡拝 (送り大師)

東葛印旛大師、正式名称「准四国八十八ヶ所東葛印旛大師巡拝 (送り大師)」は、四国霊場を模した八十八の札所・十六の掛所を、五日間 (5月1日～5日) かけて巡行・巡拝する行事として、二百有余年、伝承されています。

伝承「二百有余年」 伝統行事「東葛印旛大師」 正式名称「准四国八十八ヶ所東葛印旛大師巡拝(送り大師)」公式サイトです。

ゴールデンウィーク期間中に、「四国八十八ヶ所霊場巡り」を模した八十八ヶ所の札所を巡る行事として、実施しています。

参加者（講員・組合員）が高齢のため、マイクロバスを使っての巡行巡拝を行っていますので、場所によっては、GW期間中と相まって、通行にご不便をお掛け致しますが、地元警察のご理解を頂き、安全な巡行・運行を心がけていますので、なにとぞ、ご理解とご協力をお願いいたします。

「東葛印旛大師」が始まったのは、文化4年(1807)、江戸時代末期の文政5年(1822)など諸説がありますが、四国霊場を模した八十八ヶ所の札所を巡る行事(巡拝・送り大師)として実施されます。巡拝（送り大師）は毎年5月1日から5日迄の期間に行われ、各札所・掛所では般若心経や大師宝号等が参加者（講員・組合員）により唱和されます。全ての札所・掛所を巡り、最終日に初日に出発した札所に戻ってくることを「結願」といいます。その際には稚児行列も加わり、行事の最後を飾るべく華やかな雰囲気の中で結願場所までの練込みが行われます。

白の巡礼衣装を身にまとい、弘法大師の札所を巡る「東葛印旛大師巡拝（送り大師）」の一行は、都会化の波に洗われる東葛地方では、風薫る五月の風物詩となっています。千葉県下には多くの札所巡りが確認されていますが、中でも行程距離80キロメートルの「東葛印旛大師」はその参加人数からみても、四国以外の地域では最大級の規模とさえいわれてきました。～5日かけて巡行・巡拝する行事として、二百有余年、伝承されています。（東葛印旛大師ホームページより）

(2) 結願区

平塚地区は、2004年（平成16年）、30年ぶりに東葛印旛大師の結願区となりました。その時の様子を白井市がビデオに収め、YouTubeで公開されています。

○東葛印旛大師講平塚結願区2004 <https://www.youtube.com/watch?v=X-UJogCE6JA>

(3) 平塚地区の大師講

平塚地区は、独自に平塚大師を主催しているほか、印西大師と東葛印旛大師に加わっていますが、白井大師には加入しなかったようです。

8 関連Web

○東葛印旛大師ホームページ <https://sites.google.com/site/tokatsuinbadaishi/home>